

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	- 音読は得意な児童も多いが、書く事が苦手である児童が5割程度いる。特に、漢字の定着度が低い。たしかめの小テストではクラス平均が6割～7割程度である。間違っただけ、練習していることも多い。文章の中で漢字を的確に使えない児童が多い。文を書く事も、具体的に書く事ができず文章が短い。 - 話すことや聞くことに苦手意識をもっている児童も多い。相手の話の途中で質問や思ったことを言うなど、話の聞き方や要点をつかむことに課題がある。話すことは、具体的な内容を話すことができず、「何が」「どのように」が入っていないことが多い。	- たしかめテストでは、クラス全体で意味を確認したり、練習の時間をとったりして、指導を工夫する。テスト後の直しや再テストを繰り返す行うことで漢字の定着を図る。テストで高得点をとることが漢字を覚えることの動機付けの一つとなるよう、意欲が上がるような取り組みを考える。また、文章を書く時に正しく漢字を書けるよう、意味を考えながら使うようにする。自分の思いや分かったことを具体的に書けるように、文をノートに書く時間も授業の中で定期的にとるようにする。 - スピーチなど話すことの機会を増やし、経験を積み重ねるようにする。その際、具体的な出来事は「何が」「どのように」「いつ」「どこで」も踏まえ話そうに伝える。また、感情も合わせて話させるようにする。聞く側の心構えとして、質問することを前提として聞くよう指導する。クラス全体の聞く態勢を整えてから話をしたり、要点をまとめて短く話したりするように教師側が意識するようにする。	
社会	- 学区の施設や畑などの地理的環境に関する知識や、東大和市ではたくさん人々の様子の知識が充分ではない。身近な土地の使われ方や、人々の暮らしの様子を自分事としてとらえられるようにする必要がある。 - 資料から必要な情報を読み取ったり、調べたことを自分の言葉でまとめることが難しい。	- 地域の地図や写真、社会科見学を活用し、身近な土地利用や人々の働きを自分事として捉えられる授業を展開する。体験的な活動とICTを活用した資料提示を組み合わせ、地域の特色や人々の働きを自分の生活と関連付けて考えられるようにする。 - 写真・地図・グラフなど複数の資料を比較し、根拠を基に考える活動を取り入れる。ワークシートを活用し、調べたことを整理・表現する機会を充実させる。	
算数	- かけ算九九が定着していないため、わり算の学習で理解が不十分な児童がいる。 - 文章問題では、内容や問われていることを理解したり、整理したりすることが苦手な児童が多い。	- 習熟度別クラスにおいて、九九の反復練習を継続的に行うとともに、図や具体物を活用してかけ算とわり算の関係を理解させ、個別支援を行う。 - 求められていることに印をつけさせたり、図表やグラフなどに表して問題を可視化したりして、情報を整理させながら問題の意味を理解できるようにする。	
理科	- 生き物の観察において、着眼点が少ない児童がいる。観察して気づいたことについての記述が抽象的である。 - 実験結果を比較し、違いや共通点を見いだすことが難しい。	- 目で見るだけでなく、実際に触ってみたり、草丈・全長を測ったりするなどの活動を多く取り入れる。観察の視点を明確に示し、記録の仕方を指導することで、気付きや変化を具体的に表現する力を育成する。 - 何と何を比べるのか、どこに目を付けて比べるのかを明確にし、比べたことを表や図、言葉などで整理できるようにする。	
音楽	- 歌唱では、元気よく歌うことができるが、まわりの声を聴いて合わせることに課題がある児童が見られる。 - 器楽では、リコーダーの演奏について、基礎的な技能を身に付ける必要がある。 - 鑑賞では、知覚・感受したことを言語表現し、友達と共有できるようにする。	- 友達と声を聴き合う場面を多く設定したり、曲や思いにあった声の出し方を考えさせたりしていく。声を合わせて歌う楽しさや心地よさを感じられるように教材等を工夫する。 - 適切な息の強さやタンギング、正しい運指を覚えて演奏できるよう、友達同士聴き合ったり、習熟を継続的に確認したりしながら、身に付けるようにする。 「音楽の感じを表すことば一覧」等を活用し、知覚・感受したことを言語表現する学習を重ねていく。また、豊かな言葉で表現できている児童の発言や記述をモデルとして全体に紹介することで、どのような言葉で表現するとよいかを学んでいくようにする。	
図工	- 材料・用具の使い方を活用できていない児童がいる。 - 発想・技能面での苦手意識をもっている児童がいる。	- 基本的な材料・用具の使い方などを、動画や板書などを活用し視覚的に分かりやすく伝え、定着を図る。参考作品を授業の始めに提示し、イメージ・見通しをもちながら工夫して表せる環境をつくる。 - 動画や板書で基本的な道具の扱い方を徹底させる。その上で、選択肢を提示し、いろいろな表現方法を試したいと思わせ、意欲的に取り組ませる。	
体育	- 動きや運動のポイントを理解し、それを活かした動きや運動の仕方を工夫することに課題がある。 - ペアやグループでの活動に対して協力的でない児童がいる。	- 動きのポイントを視覚的に示すとともに、ICT機器や学習カードを活用して自分の動きを振り返り、運動の仕方を工夫する力を育成する。 - 複数人で協力して活動することの良さや楽しさを実感できるような活動を行うとともに、一人一人が役割をもって活動できる場を設定し、互いに認め合いながら協力して運動する態度を育成する。	